

令和六年度

海外帰国生入学試験問題 国語

令和五年十二月十日実施

試験開始の合図があるまで問題用紙は開かず、左記の注意事項をよく読んでおきなさい。

一、問題は二十五ページまであります。足りないページや、印刷のよく見えないページがあったときは、手を上げて申し出てください。

二、解答用紙は別になっています。答えはすべてそこに記入してください。

三、解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。

四、問題用紙には、受験番号・氏名を書く必要はありません。

次の文章を読んで、後の1～13の問いに答えなさい。(問題の都合上、本文を変えているところがあります。※のついた説明は出題者が加えたものです。)

「昨日、たのしかったね」

授業と授業の間の十分休憩きゅうけいに、権ちゃんごんちゃん(※権藤あゆみごんどう)。みんなは「権ちゃん」と呼ぶが、本人は自分のことを「あゆ」と呼んでいる)がぼくの席にきて言った。ぼくと権ちゃんの席がとなり同士だったのはもうずいぶん前で、ぼくはここ最近の席替せきがえくじではずっと窓側の席を引いていた。十分休憩のあいだは冬でも空気いの入れ替かえで窓を開けなくてはいけないから、冬のあいだだけ窓側の席は、いちばん前の席に次いで悪い席とされていた。権ちゃんは手をすりすりさせて、「やっぱここ寒ーい」とひとり言を言う。

「きのう」

ぼくは長いあいだ兄ちゃんについて考えていたので、どこからが昨日なのか判別するのに時間がかかった。もちろん権ちゃんの言うことは正しくて、みんながうちに来たのは昨日だ。

「あのゲーム、またやりたいね。思ったんだけどさ、昨日やった通りに人生なったら、すごくない? そしたらあゆ、ユーチューバーになれないから、それはやだけどさ」

「ああ」

「ってか、お兄さん大丈夫だいじょうぶだった? あゆたち邪魔じゃましてた? でも坪内くんも言ってくればいいのに、お兄さんいること。坪内くんも大変たいへんだね。もうずっと家にいるの?」
② よくあゆたち呼んでくれたよね。まあ押しかけたみたいない感じか。ふふ、たのしかった

たね」

よくしゃべる女子だと思った。権ちゃんとはドッジボールとかドロケイとか、遊びを通してでしか話さないから、**A** 顔を見たことはあまりなかった。かわいいはずの権ちゃんだけど、**B** 話す様子を見てみると、口の大きさはなんだか大きすぎるような気がしたし、いまつけているいちごの形をしたクリップみたいなピン留めも、**C** 前髪を留められるとは思えないからとったほうが良いと思った。

③ 「え、無視？」

イ 「おこってないよ」

ロ 「ん？ ああ、いや」

ハ 「なに？ なんか怒ってんの？」

ニ 「大丈夫もなにも、もちろん大丈夫だよ」

ホ 「怒ってんじゃない。こっちはお兄さん大丈夫って心配してんに」

「なにその言い方」権ちゃんは、片方の腕を**C** 伸ばし、もう片方の手でひじのあたりをつかむ、だらけた腕組みをした。最近女子がするようになった、見下されている風にもとれる立ちかたに、ぼくも腹が立ってきた。

「なんだよ、さっきから。兄ちゃんが家にいるのってそんなに悪いの」

「悪いなんて言っていないじゃん、大変だねって言ってんの」

「大変じゃないよ、ふつうじゃん」

ぼくは昨日の自分を ④ 棚たなに上げて、権ちゃんにたいしてイライラした。

「まあ、ふつうではない？」

「ぼくんちでは、兄ちゃんがいるのがふつうだよ」

「うーん。あんま、自分の家のふつうが、ほかの人のふつうと同じと思わないほうがいいよ」

権ちゃんはいちごのピン留めをはずし、また同じところにつけながら言った。

「でもそれだったら、権ちゃんだってそうじゃん」

「なにが？」

「学校いくのがふつうって思ってるから、ぼくの兄ちゃんのこと、大変だ、なんて言うんでしょ？」

「は？ あゆが言ってるのは、みんながやるのが『ふつう』ってことだよ。おかしいって思われるのがいやなら、みんなと同じことすればいいじゃん」

周りがぼくと権ちゃんの言い争いにだんだん気づいてきて、いろんな方向から視線を感じた。ぼくはこんな姿をたまたま通りすがった南みなみ優香ゆうかに見られたら困るので、少し声を小さくして、

「家で勉強してるってだけじゃんか」と言っただけで権ちゃんはまったく気にせず大きな声で、

「でも学校行ってないんでしょ？」 ⑤ コミュ障かたじゃん」と大きく肩かたを上げ下げして言う。

「学校行ってないのがなんでそんなにダメなの？ 行くのが向いてないんだから、行かないでいいじゃん」

「だから、別にダメなんて言ってないじゃん。ママによく言われるけど、勉強とかより、元気に挨拶あいさつできるかのほうが大事なんだよ。

だって ⑥ 社会人かいじんになったら、たくさんの知らない人と仕事しなきゃいけないんだから。気持ちよく仕事するために、コミュニケーショ

ンがいちばん大事だって。あゆのママ、中学の先生やってるけど、中学生にもそれ言ってるって言ってたよ」

ふんふんと **D** を荒くして権ちゃんが言う。どうしたの？ 大丈夫？ と周りから声が聞こえる。

「コミュニケーション、できないひともあるだろ」

「ふーん。可愛いそうね」

そう言い切ってから、するすると前髪からずり落ちてくるピン留めをはずした。ほらみる、意味ないじゃないかそのピン留め。ぼくはそう思うだけで声に出すことはできなかつた。あまりにも今までの会話と関係のないことだったし、「可愛いそう」という言葉は長い間ぼくの喉をきゅつとしめた。

権ちゃんは言い負かしたことに満足したのか、**E** と短く謝った。それは自分がぼくよりお姉さんになった気分

で言っているのがすぐわかる言い方で、ぼくはますますムカついた。こんな風にぼくをイラつかせるんだから、権ちゃんだってコミュニケーションが得意なわけ、ないじゃないか。少なくともぼくは権ちゃんと気持ちよく仕事ができるとは思えない。キーンコーンの鐘と同時に先生が入ってきて、権ちゃんはさっきよりもっと高い位置にピン留めをつけて席についていた。

その日が六時間目まである日でよかった。授業が終わるともう夕方三時を過ぎていたので、校庭で残って遊ぼうと言い出すやつもない。みんな意外と塾や習い事で忙しいのだ。いま権ちゃんと一緒に遊ぶことなんてできないので、ちようどよかった。

こういう日、塾も習い事もしていないぼくは図書室で伝記マンガを借りていくことにしている。だけど今日はそんな気分にもなれなかった。図書室にはかなりの数の伝記マンガがあって、ぼくはもうほとんど読んでしまっていた。残り少ないぶんを、今日みたいなブルーな日に読んでもしまうのはもったいない。ぼくは借りていた『**F**』^⑧を返すだけにして学校をでた。

兄ちゃんが家にいたらどうしようと、ぜったい家にいるのにぼくは思った。権ちゃんとの言い争いで、兄ちゃんが家にいることはふつうじゃないと、言葉になってしまった。言葉になってしまった途端^{とたん}、本当にそう思えてきてしまった。ぼくのせいだ。ぼくがみんなに兄ちゃんを会わせたから、こんな風になってしまったのだ。ぼくはいつもの道を、いつもより端^{はし}っこを歩いて帰った。端^{はし}っこは電信柱や看板や枯^かれた雑草があつて歩きにくかつたけれど、それくらいのことをしないと、家に帰る資格はないと思つた。^⑨

(川上佐都『街に躍^はねる』による)

問1 — 線①「坪内くんも大変だよ」とあるが、この時の「権ちゃん」はどのような気持ちで「ぼく」に話しかけているのか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 家でいつも「お兄さん」の世話をしている大変な「ぼく」の日々の苦勞をねぎらおうとする気持ち。

ロ 「お兄さん」の事情を知らなかったとはいえ家に押しかけたことを「ぼく」に謝ろうとする気持ち。

ハ 学校に行っていない「お兄さん」を「ぼく」がどう思っているかさぐりを入れようとする気持ち。

ニ 急に遊びに行つて「お兄さん」に迷惑^{めいわく}をかけていなかったか「ぼく」にたずねようとする気持ち。

問2 ー線②「よくあゆたち呼んでくれたよね」と同じ使い方の「よく」が使われているものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ あなたの言っていることがよくわからない。

ロ そんなのよくある話なんじゃないのかなあ。

ハ 一人でよくこれだけの物を作れたものだね。

ニ 負けたくせによく顔をみせられたもんだよ。

問3 A C に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい。同じ記号は二度使えない。

イ キリッと

ロ だらりと

ハ とつとつと

ニ ペラペラと

ホ まじまじと

問4 — 線③ 「え、無視？」と言っている「権ちゃん」はどのような気持ちだったのか。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 家にいる「お兄さん」のことを聞いているのに、自分の前髪のクリップばかりを「ぼく」が見ているのを不愉快ふゆがいに思う気持ち。
- ロ 「お兄さん」のことを心配して席にまで行って声をかけてあげているのに、「ぼく」の反応が鈍にぶいので腹が立っている気持ち。
- ハ 学校に行っていない「お兄さん」についてもっとよく知りたいのに、「ぼく」がひた隠かくしにしていることを許せない気持ち。
- ニ 昨日「お兄さん」の邪魔をしたことを反省して謝っているのに、「ぼく」が知らんぷりをしているので信じられない気持ち。

問5  で囲まれたイ、ホの各文を、文章の意味が通るように正しく並べかえなさい。

問6 — 線④ 「棚に上げて」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ うしろ暗さから引け目に感じて
- ロ 終わったこととあきらめていて
- ハ 知らぬふりをして放っておいて
- ニ 大したことではないと軽く見て

問7 — 線⑤ 「コミュ障」とあるが、これは具体的にどのようなことを言っているのか。文章中の言葉を使って、二十字以内で説明しなさい。

問 8 ー線⑥「社会人」という熟語と成り立ちが同じものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 文化祭
- ロ 大自然
- ハ 天地人
- ニ 非常識

問 9 Dに当てはまる熟語を、次の□の中から二つの語を選んで組み合わせ、漢字に直して答えなさい。

- イキ
- キ
- キュウ
- コエ
- ハナ

問 10 Eに当てはまる表現として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ あゆ、悪かったのかな
- ロ 今の、無かったことで
- ハ ウソウソ、ジョーダン
- ニ ごめん、言い過ぎたね

問11 ー線⑦ 「いま権ちゃんと一緒に遊ぶことなんてできない」とあるが、その理由を説明した次の文の【 】に当てはまる五字の表現を、文章中からぬき出して答えなさい。

・ 「権ちゃん」が「兄ちゃん」のことを【 】
【 】だと言ったことで、一緒に遊ぶ気分になれなくなったから。

問12 ー線⑧ 「ファールブル」の主な著書を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 『昆虫記』
ロ 『種の起源』
ハ 『動物記』
ニ 『沈黙の春』

問13 ー線⑨ 「家に帰る資格はない」とあるが、なぜ「ぼく」はそう考えたのか。文章中の言葉を使って、三十五字以上四十五字以内で説明しなさい。

(問題は次のページに続く)

一

次のⅠ・Ⅱ・Ⅲの文章を読んで、後の1～11の問いに答えなさい。(問題の都合上、本文を変えているところがあります。※のついた説明は出題者が加えたものです。)

Ⅰ 私たち人間を含めたすべての生物は、その他の生物ではないもの——たとえば石や水——とはひとつの大きな違いがあります。それは「増える」ことです。

38億年くらい前に、生物がまだ生物とはとても呼べないような化学物質の集まりだった時代に、その原始の化学物質は増える能力を獲得しました。そしてその能力のために化学物質は進化することができますようになり、最初の生命がうまれました。生命とは、増える能力が作り出したひとつの「物理現象」だと言えます。

Ⅱ 進化が起こるためには前提として「増える」という性質と「子孫に性質が遺伝する」という2つの条件が必要になります。そしてこれはただの必要条件(※あることが成り立つために、必ずなくてはならない条件)ではなく、十分条件(※あることが、そのことによって必ず成り立つような条件)でもあります。つまり、どんなものでも(生物でなくても)増えて遺伝する性質があれば進化という現象が起こるといえることです。ふつう進化の話が出てくるときは生物を対象としているのでこんな条件を気にする必要はないのですが、生命の成り立ちを考えるとときには、この進化する条件の有無がとても大事になります。

Ⅲ そこでもう少し、この進化の様子を具体的に説明してみたいと思います。原始的な生命のことはほとんど何も分かっていなくて説明しにくいので、ここではロボットを材料にして説明してみたいと思います。本当に、増える能力を持つ物質が生き物になっていくのであれば、増える能力を持つロボットだって生き物に進化していくはずですよ。本当にそんなことが起こるでしょうか？

よくできた未来のロボットを想像してみてください。ちゃんと手足がついていて、自由に動いて、器用で賢くて、見本とその材料を渡せばどんなものでも作ることでできる万能ものづくりロボットです。このロボットがいろいろな材料がすべてそろっている巨大な工場にたくさん配備されています。

与えられた命令はただ1つで、「とにかく自分と同じものをつくれ」です。材料とエネルギーは豊富にあります。ロボットたちは自分の身体をよく観察して、自分と同じものを作ることによってどんどん増えていくでしょう。しかし、このロボットの工作は完璧ではありません。ときどき違う部品を使ってしまったり、部品が見つからなかったりすると、よく似た別の部品を使ってしまうこともあります。

その①ほとんどの場合では、新しく作ったロボットはまともに動かないでしょう。でも、ごくまれに間違えた部品がうまく働いて、もつと速く動けたり、もつと細かい作業ができるものが現れます。こうしてロボットの性能にAが生まれ、そのなかで一番自分を速く増やすものがどんどん増えていく自然選択が起こるはずです。

そのうち材料が足りなくなれば、少ない材料で作ることのできる小さいロボットが増えてくるかもしれません。あるいは工場を飛び出して周りにあるものから材料を作り出す能力を持ったロボットや、他のロボットを壊して材料を調達する捕食者のようなロボットも現れるかもしれません。エネルギーが足りなくなってくれば、ソーラーパネルを作って太陽光からエネルギーを獲得する植物のようなロボットがでてくるかもしれません。あるいは、徒党を組んでお互いだけを選んで作りあうようなBをもったロボットたちがでてくるかもしれません。

さらに、ロボットに与えられた命令も変わるかもしれません。ここでは最初の前提としてロボットに「とにかく自分と同じものをつくれ」という命令を与えていましたが、この命令もロボットが変えられるように設定しておけば、命令にも多様性が生まれます。「自

分と同じものをつくれ」という命令が壊れてしまつてはもう増えることはできないのでダメですが、この命令に追加して「そしてそのうち、壊れないように身を守れ」という命令も新たに獲得する可能性もありそうです。なぜならこの命令を獲得したロボットは持たないロボットよりも、壊れかねない危険な行為を避けることで自らのコピーを残すチャンスが増えるからです。

こうしてどんどん子孫を残すことに有利な命令をもつロボットが増えていくことになるでしょう。さらにこの命令が増えるために効果的であればあるほど、もう書き換えられないようになっていくはずで、**C** まるで生物のもつ本能のようにすべての子孫のロボットに定着していきます。

D ロボットは思考能力も獲得することでしょう。なぜなら、ロボットがなにかしらの思考能力を獲得し、「増えろ」という命令に従つて **③** 臨機応変な行動をとれるようになったならば、そのロボットは意思を持たないロボットよりも有利に増えることができるからです。そうした意思をもったロボットは、きつと増えるためにいろいろなことを考えて実行に移すでしょう。他のロボットを観察して、有利な性質を真似するなんてこともするでしょう。 **④** それはただ増えることに有利な性質がたまたま生まれることを待っているほかのロボットに比べて、ずっと有利なはずで、

E、万能ロボットが達成可能なことで、増えることに有利な性質は何でも生まれる可能性があります。こうして、ロボットたちはいろいろな能力と戦略を生み出して、工場を飛び出して世界中に広がっていくことでしょう。もし、私たち人間が、こんなふうにかロボットが暮らしている惑星を見つけたとしたら、きつと **⑤** 機械の体を持った生き物だと思つてはならないでしょうか。

ここでロボットには最初は何の意思もなかったことに注意してください。彼らはただ自分を作る能力があつて、それを發揮しているだけです。このロボットたちの **F** は、いわば増えることにともなう物理現象です。その能力の結果、どんどん増えて、どんどん変わつていき、生物界に見られるような一次生産者、 **⑥** 捕食者、社会性といった生命現象を起こすこととなります。

以上で述べたロボットには、最初に「とにかく」Gという命令が与えられていましたが、実はこの命令も必要ではありません。全く^⑦ランダムな命令を与えていたとしても、十分にロボットの数が多ければ、中には「自分と同じものをつくれ」という命令を持っているロボットが現れます。そのようなロボットが1台でも出現すればどんどん増えていって、^⑧右に書いた現象が起きることになります。これがまさに生命誕生前に起きたことだと想像されています。

(市橋伯一『増えるものたちの進化生物学』による)

問1 — 線①「ほとんどの場合」とあるが、これはどのような場合か。文章中の言葉を使って、三十字以上四十字以内で説明しなさい。

問2 A・Bに当てはまる漢字三字の言葉を、文章中からそれぞれぬき出して答えなさい。

問3 — 線②「与えられた」の「られ」と同じ性質の「られ」を含んだ文を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ あの山では美しい桜の花が見られた。 ロ 遠足に行って秋の気配が感じられた。
- ハ どちらかに出かけられたようですね。 ニ 例外が認められたことはおどろきだ。

問 4 C E に当てはまる言葉として適当なものを、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい。同じ記号は二度使えない。

イ では ロ さらに ハ つまり ニ ところが ホ そうして

問 5 ———線③ 「臨機応変な」が正しく用いられている文を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 委員長の臨機応変な態度が我々の混乱を招いた。
- ハ 君の臨機応変な質問は失礼に当たることがある。
- ロ かのじよ彼女は臨機応変な人柄ひとがらでだからも尊敬される。
- ニ 次々と起こる問題を臨機応変な対処で解決した。

問 6 ———線④ 「それ」とあるが、「それ」が指す内容を文章中から十字でぬき出して答えなさい。

問7 — 線⑤ 「機械の体を持った生き物だと思う」とあるがなぜか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 子孫を残すことに有利な命令を持つと、その分どんどん増えるから。
- ロ 自分の意思を持ち、能力と戦略を生み出して増えようとしているから。
- ハ 自分の身を守ったうえで、前提となる命令を守って増えていくから。
- ニ 有利な性質によって、自らのコピーを残すチャンスが増やせるから。

問8

F

・

G

 に当てはまる言葉を、Fは二字、Gは三字で文章中からそれぞれぬき出して答えなさい。

問9 — 線⑥ 「捕食者」とは具体的にどのようなロボットのことを言っているのか。それを説明した次の文の【 】に当てはまる十七字の表現を文章中からぬき出し、最初と最後の三字ずつを答えなさい。

【 】性質を持つロボットのこと。

問10 —線⑦「ランダムな」とあるが、その意味として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 非常識な
- ロ 不利益な
- ハ 未完成な
- ニ 無作為むざくゐな

問11 —線⑧「右に書いた現象が起きることになります」の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 「自分と同じものをつくれ」という命令を持っているものが出現すれば、新たな命令を獲得する可能性もあり、命令の追加から世界中に広がっていく、生物界に見られるような現象が起きることになるということ。

ロ 「自分と同じものをつくれ」という命令を持っているものが出現すれば、その命令に従ってどんどん増えていくことになり、有利な性質の真似をする、生物界に見られるような現象が起きることになるということ。

ハ 「自分と同じものをつくれ」という命令を持っているものが出現すれば、自分のコピーを増産していくことになり、その能力の結果、変質を繰り返かえし、生物界に見られるような現象が起きることになるということ。

ニ 「自分と同じものをつくれ」という命令を持っているものが出現すれば、なにかしらの思考能力を獲得することができて、自分を作る能力を発揮する、生物界に見られるような現象が起きることになるということ。

(問題は次のページに続く)

三

次の文章を読んで、後の1〜8の問いに答えなさい（問題の都合上、本文を変えているところがあります）。

俳句を始めたところに多いのは、何か劇的な経験をしたり、すばらしい風景を見たりしないと、俳句が作れないと思ってしまうこと。でも、日常の中でそんな機会はそうそうありませんよね。結果、部屋でウンウンと頭を [A] 句を作ろうとしてしまいがちです。そんなときは、とにかく一步踏み出して、庭やベランダに出てみましょう。窓を開けて外を見るだけでもいいんです。

① 戸を開けると、ほら新鮮な空気が入ってきます。まずは「庭の空気新鮮」と句帖に書きつけます。

② 松尾芭蕉は「旅に出たら自分の家に居るかのように、家に居るときは旅の宿に居るかのごとく」俳句を作りなさいと言いました。庭に出ただけで旅に 来たような、見知らぬ町を見回しているような気分になって、お隣の庭の花を覗いたり、遠くの山、雲を見上げたりしてみるのも楽しいことです。

「お隣の庭に咲く小さな花」とか、「どこまでも屋根が並んで」とか、見えたことをどんどんメモしていきます。「遠くの山をこんなにゆっくり見るのは久しぶり」「雲の動きがはやいなあ」と、感じたことも書いておきます。

③ こんな当たり前のこと、つまらないことを書いても……と思わずに、とにかく片っ端から見たもの、感じたことを、言葉の切れ端でいいから書きとめておくのです。句帖は他人に見せるものではありませんから、どんなささいな、つまらない感想を書きつけても恥ずかしいことはありません。

縁側えんがわに腰こしを下ろして「庭の空気新鮮」と書きとめた言葉に、何か季語を合わせてみましょう。見回すと、そろそろ春が近く、木々は芽吹めぶいているものもあります。

B 朝の庭空気新鮮木の芽吹く

としてみました。これもすかさず句帖に書きつけます。

C 家の庭ぐると見回し二月来る

D 寒明けや遠くの山も久しぶり

E 春待つて雲の動きの速きこと

次々にメモします。F 庭の景が、定型に収まると一句になったと感じませんか？ 誰だれも聞いていないから、「うん、悪くないな」とつぶやいたっていい。

とりあえずこうして季語を入れ、^④ G・H・I にまとめましょう。季語を変えながらどんどんメモして、こういうなんでもない句が十句できたら「手ごたえあり」です。

季語を選ぶのはむずかしいけれど、楽しい作業です。部屋むとに戻もどって J を取り出し、合いそうな季語を探して、つけ替かえてみるの

もいいでしょう。十句全部に、その場でぴったりにくる季語が見つからなくても気にすることはありません。あとで時間ができてからゆっくり考えればいいのです。

(辻桃子 如月真菜『毎日新鮮に！ 俳句入門 ちよつとそこまで おでかけ俳句』による)

問1 Aに当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ かかえて ロ たたいて ハ ひねって ニ まわして

問2 ー線①「松尾芭蕉」とあるが、松尾芭蕉の俳句を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。(引用の俳句は、すべて浜島書店『国語便覧』による)。

イ 閑かさや岩にしみ入る蟬の声 ロ 春の海終日のたりのたりかな
ハ 葡萄食ふ一語一語の如くにて ニ 名月をとつてくれろとなく子かな

問3 ー線②「来たような」に使われている表現技法として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 暗喩法 ロ 擬人法 ハ 直喩法 ニ 倒置法

問4 —線③「ささいな」とあるが、その意味として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ とつかかりがない
- ロ とらえようのない
- ハ とりとめのない
- ニ とるにたりない

問5 BとEの俳句について、次の(1)と(3)の間に答えなさい。

(1) Bの俳句から季語を探し、ぬき出しなさい。

(2) 切れ字を使った俳句はどれか。BとEの中から一つ選んで記号で答えなさい。

(3) Dの俳句の季語は「寒明け」である。これと同じ季節を表す季語を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ かぼちゃ
- ロ 大根
- ハ トマト
- ニ 菜の花

問6 Fに当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ ありふれた
- ロ つまらない
- ハ なにもない
- ニ ものがなし

問7 ー線④ ㊦・㊨・㊩ にはそれぞれ俳句の定型を表す漢数字が入る。その漢数字を答えなさい。

問8 ㊪ に当てはまる季語の辞典の名前を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 季語集

ロ 広辞苑こうじえん

ハ 歳時記さいじき

ニ 四季報

(問題は次のページに続く)

四

次の文の――線のひかれたカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

- ① ひどくケワしい山道を登る。
- ② 国会で法案がカケツされた。
- ③ 旅行者のアンピを確かめる。
- ④ 障子を使った和風建築の家。

本校の許可なく、掲載内容の一部およびすべてを複製、転載または配布、印刷するなど、第三者の利用に供することを禁止いたします。